

III

学部・研究科等による 取組み

III-2 千葉第2キャンパス

千葉第2キャンパス学年暦 95

看護栄養学部 97

学部レビュー

- 1 学生の受け入れ(在籍管理)
- 2 教育課程
- 3 教育組織
- 4 学生支援
- 5 就業支援
- 6 研究活動
- 7 社会貢献
- 8 図書室〔千葉第2〕
- 9 その他

2013(平成25)年度 千葉第2キャンパス〔看護栄養学部〕 学年暦

4 月			5 月			6 月		
1	月		1	水	4	1	土	授業予備日
2	火	入学式(学部合同)	2	木	4	2	日	
3	水	1・4年次生オリエンテーション	3	金		3	月	8
4	木	1・2年次生オリエンテーション	4	土	祝日(憲法記念日)	4	火	8
5	金	1・3年次生オリエンテーション	5	日	祝日(みどりの日)	5	水	9
6	土	健康診断(1年次生)	6	月	祝日(こどもの日)	6	木	9
7	日		7	火	祝日(こどもの日振替休日)	7	金	8
8	月	前学期授業開始 前学期履修登録開始	8	水	総合実習(5/7～5/24)	8	土	B型肝炎ワクチン接種2
9	火		9	木		9	日	授業予備日
10	水		10	金	B型肝炎ワクチン接種1	10	月	9
11	木		11	土		11	火	9
12	金		12	日		12	水	10
13	土		13	月		13	木	10
14	日		14	火		14	金	9
15	月	前学期履修登録締切(正午まで)	15	水		15	土	学園建学式・教職員特別研修会
16	火		16	木	教授会	16	日	
17	水		17	金		17	月	10
18	木	教授会	18	土		18	火	10
19	金	降誕会(午前休講)	19	日		19	水	11
20	土		20	月		20	木	11
21	日		21	火		21	金	10
22	月		22	水		22	土	
23	火	創立記念日	23	木		23	日	オープンキャンパス①
24	水		24	金		24	月	11
25	木		25	土		25	火	11
26	金		26	日		26	水	12
27	土	就職個別相談会 健康診断(2年次生～4年次生)	27	月		27	木	12
28	日		28	火		28	金	11
29	月	通常授業(昭和の日)	29	水		29	土	授業予備日
30	火		30	木		30	日	
			31	金	7			
7 月			8 月			9 月		
1	月		1	木	前学期定期試験 授業予備期間(千葉C科目)	1	日	
2	火		2	金	前学期定期試験	2	月	再試験日程発表(千葉C科目) 臨地実習開始(3年次生)(9/2～3/7)
3	水		3	土	追試験日程発表(千葉C科目)(予定)	3	火	
4	木	孟蘭盆会(午後休講)	4	日	オープンキャンパス③	4	水	再試験期間(千葉C科目)(9/4～9/6、9/9～9/11)
5	金		5	月	追試験期間(千葉C科目)	5	木	
6	土	ホームカミングデー	6	火	追試験期間(千葉C科目)	6	金	
7	日		7	水	追試験日程発表(第2C科目)	7	土	
8	月		8	木	追試験期間(第2C科目)	8	日	
9	火		9	金	追試験期間(第2C科目)	9	月	
10	水		10	土		10	火	
11	木		11	日		11	水	
12	金		12	月		12	木	
13	土	授業予備日	13	火		13	金	後学期履修登録開始
14	日		14	水		14	土	
15	月	通常授業(海の日)	15	木	再試験対象者・日程発表(第2C科目) 再試験期間(第2C科目・看護2年次生・3年次生のみ)	15	日	
16	火		16	金	再試験期間(第2C科目・看護2年次生・3年次生のみ)	16	月	1 通常授業・後学期授業開始(敬老の日)
17	水		17	土		17	火	1
18	木	教授会	18	日	オープンキャンパス④	18	水	1
19	金		19	月	再試験申込締切(第2C科目) 再試験対象者の指導期間(8/19～8/21)	19	木	1 教授会
20	土	授業予備日	20	火		20	金	1
21	日	オープンキャンパス②	21	水		21	土	後学期履修登録締切(午前11:00まで)
22	月		22	木	前学期成績発表(看護2年次生のみ)	22	日	オープンキャンパス⑤
23	火		23	金		23	月	2 通常授業(秋分の日)
24	水	授業予備日	24	土		24	火	2
25	木	振替休日(昭和の日)	25	日		25	水	2
26	金		26	月	老年看護学実習Ⅰ(8/26～9/6) 再試験申込締切(千葉C科目)	26	木	2
27	土	淑徳フェア(宮城) 前学期定期試験(看護1年次生のみ)	27	火		27	金	2
28	日		28	水		28	土	
29	月	前学期定期試験 基礎看護学実習Ⅰ(7/29～8/2)	29	木	再試験期間(第2C科目・1年次生・栄養2年次生・4年次生)	29	日	
30	火	前学期定期試験 授業予備期間(千葉C科目)	30	金	再試験期間(第2C科目・1年次生・栄養2年次生・4年次生)	30	月	3
31	水	前学期定期試験 授業予備期間(千葉C科目)	31	土				

10 月			11 月			12 月		
1	火	3	1	金	7	1	日	
2	水	3	2	土		2	月	11
3	木	3	3	日	龍澤祭準備のため休講	3	火	11
4	金	3	4	月	祝日(文化の日) 龍澤祭	4	水	12
5	土		5	火	祝日(文化の日振替休日) 龍澤祭	5	木	12
6	日		6	水	龍澤祭後片付けのため休講	6	金	12
7	月	4	7	木		7	土	
8	火	4	8	金		8	日	
9	水	4	9	土		9	月	12
10	木	4	10	日		10	火	12
11	金	4	11	月		11	水	13
12	土		12	火		12	木	13
13	日		13	水		13	金	13
14	月	5	14	木		14	土	
15	火	5	15	金	B型肝炎抗体価検査	15	日	
16	水	5	16	土		16	月	13
17	木	5	17	日		17	火	13
18	金	5	18	月		18	水	14
19	土		19	火		19	木	14
20	日		20	水		20	金	14
21	月	6	21	木	教授会	21	土	入学前準備セミナー
22	火	6	22	金		22	日	
23	水	6	23	土	祝日(勤労感謝の日)	23	月	14
24	木	6	24	日		24	火	14
25	金	6	25	月		25	水	14
26	土		26	火		26	木	
27	日		27	水		27	金	
28	月	7	28	木		28	土	
29	火	7	29	金		29	日	
30	水	7	30	土		30	月	
31	木	7	31	日		31	火	
1 月			2 月			3 月		
1	水		1	土		1	土	卒業生発表(4年次生)
2	木		2	日		2	日	
3	金		3	月		3	月	
4	土		4	火	一般入試(1次) 追試験日程発表(第2C科目)	4	火	
5	日	学園賀詞交歓会	5	水	一般入試(1次)	5	水	再試験期間(第2C科目・看護学科2年次生)
6	月	15 新年授業開始	6	木	追試験期間(第2C科目)	6	木	再試験期間(第2C科目・看護学科2年次生)
7	火	15	7	金	追試験期間(第2C科目)	7	金	
8	水	15	8	土		8	土	
9	木	15	9	日		9	日	
10	金	15	10	月	振替休日(体育の日)	10	月	振替休日(天皇誕生日)
11	土		11	火	祝日(建国記念の日) 一般入試(2次)	11	火	
12	日		12	水	再試験対象者・日程発表(第2C科目) 後学期成績発表(看護学科1年次生・栄養学科)	12	水	
13	月	祝日(成人の日)	13	木		13	木	
14	火	振替休日(敬老の日)	14	金	再試験申込締切(第2C科目・千葉C科目)	14	金	
15	水	授業予備日	15	土		15	土	卒業式・卒業記念パーティー
16	木	教授会 授業予備日	16	日		16	日	
17	金	授業予備日	17	月	後学期成績発表(4年次生)	17	月	振替休日(文化の日の振替休日)
18	土	大学入試センター試験	18	火	振替休日(文化の日)	18	火	
19	日	大学入試センター試験	19	水		19	水	
20	月	授業予備日	20	木	再試験期間(第2C科目・看護学科1・4年次生・栄養学科)	20	木	教授会
21	火	振替休日(秋分の日)	21	金	再試験期間(第2C科目・看護学科1・4年次生・栄養学科)	21	金	祝日(春分の日)
22	水	授業予備期間(千葉C科目)	22	土	再試験日程発表(千葉C科目)	22	土	
23	木	後学期定期試験 授業予備期間(千葉C科目)	23	日		23	日	
24	金	後学期定期試験	24	月	再試験期間(千葉C科目)(2/24~3/1)	24	月	後学期成績発表(看護学科2・3年次生) 看護学科進級発表
25	土	後学期定期試験 追試日程発表(千葉C科目)	25	火		25	火	
26	日		26	水		26	水	
27	月	後学期定期試験 授業予備期間(千葉C科目) 基礎看護学実習II(1/27~2/26)	27	木	教授会	27	木	
28	火	後学期定期試験 追試験期間(千葉C科目)	28	金		28	金	
29	水	後学期定期試験 追試験期間(千葉C科目)				29	土	
30	木	後学期定期試験				30	日	
31	金	振替休日(海の日)				31	月	

平成25年度 千葉第2キャンパス（看護栄養学部）レビュー

1. 平成25年度振り返り

●学生募集

26年度入試の結果、入学者数は看護学科が114名、栄養学科が76名であった。栄養学科の定員は下回ったが、学部としての入学定員は充足できた。

●キャリア支援

就職支援では、看護学科は実習病院他による個別相談会を開催し、就職活動に備え履歴書の書き方、マナー講座を開催した。その結果、看護学科の就職希望者の就職率は100%であった。栄養学科では1,2年生に就職ガイダンスを実施し、4年次から始まる就職活動の一助とした。また、両学科の公務員志望の学生のために公務員講座を開催した。

国家試験対策では、看護学科は学内教員・専門業者による対策講座を開催し、また模試を看護師5回、保健師3回実施し、成績低迷者への個別指導を行った。栄養学科の国家試験対策は、2年次生に「国家試験にむかっての勉強法」講座や国家試験対策講座を実施した。結果として、看護師国家試験合格率は95.9%、保健師国家試験合格率は98.3%となり、全国平均を超え、高い水準を維持しているが、目標値（100%）は下回った。

●正課活動

アクティブラーニングの推進のため、FD研修会を開催した。ループリックについては、演習科目・実習科目で部分的にループリックの試作を行った。講義科目へのループリックの導入は、ループリック勉強会に有志が参加した。シラバスの組織的作成・統一化は、22年度から授業等の計画に事前学習、到達目標、事後学習の3項目を記入する現在のシラバスの記入方式になっており、以後継続的に実施している。学生の授業時間外学習の平均時間が30分未満である学生を10%未満にするという目標をたてたが、21.6%（24年度は18.2%）に増加し、達成できなかった。原因はアンケート回答者のうち低学年の割合が増えたためと思われる。

●正課外活動

正課外学習として25年度からはじめたボランティア講座への参加者は72名で、修了者は22名であった。

●その他

地域への社会貢献活動として、松ヶ丘地区の拠点であるひだまりで健康教育と健康・栄養講話を合計18回開催した。また学生が地域のさまざまな催しにボランティアとしてのべ126名が参加した。

2. 次年度への課題、方策

1. 国家試験合格率については、看護師国家試験合格率100%、保健師国家試験合格率100%を目標とし、国家試験対策のさらなる充実をはかる。成績低迷者には早い時期から集団指導、個別指導を行う。栄養学科は2,3年生にそれぞれの学年に応じた国家試験対策講座を実施する。
2. 学生の授業時間外学習時間については、30分未満のものを15%未満にすることを目標とし、演習での課題提示や、シラバスの事前・事後学習の活用等の工夫を行う。

以上

1 学生の受け入れ（在籍管理）

関連委員会	入試広報委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

入学定員を確保し、アドミッションポリシーに適った、質の高い入学者を確保する。

- (1) 栄養学科の受験者数を24年度入試並み（267名、3.38倍）に確保する。
- (2) 栄養学科の入学者数を80～84名の範囲におさめる。
- (3) 看護学科の入学者数を105～110名の範囲におさめる。
- (4) 退学者数をできるだけ減らす。

2 具体的計画

PLAN

- (1) アドミッションオフィス職員による学校訪問、教員による模擬授業、オープンキャンパスの方法などを工夫し、高校生の関心を高める。
- (2) 昨年度の入試データを活用して、各入試での合格者数を慎重に決定する。
- (3) 欠席の多い学生を早期に把握し、アドバイザーが面接指導する。

3 取組状況

DO

- (1) オープンキャンパスでは年度途中より、栄養学科教員発案の千葉産野菜入りカレーを昼食に出したり、実験系の体験授業をプログラムに入れるなどして、栄養学科をアピールした。また、栄養学科への高校からの模擬授業の依頼はなく、アドミッションオフィス経由で職業紹介の講義依頼が3件あったので対応した。
- (2) 欠席の多い学生に対しては、アドバイザーができるだけ面接の働きかけを行うようにした。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 栄養学科の志願者数は253名で14名減であった。年内合格者を今年度は58.8%（前年は70%）に抑えたことも影響していると思われるが、合格者を147名出したにもかかわらず、手続き率は53.7%（前年は75.4%）であり手続き率が低く、入学者は76名と定員を充足することができなかった。
看護学科は前年より辞退率が低く、114名が入学した。
- (2) アドバイザーの働きかけに応じない学生も見られ、結果的に退学に結びつくケースがあった。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 栄養学科の受験者数の減少が続くことのないように対策を考える。
- (2) 栄養学科は年内入試で50名（62.5%）以上を確保するようにする。
- (3) 看護学科が110名を超えないように、補欠合格を慎重に行う。
- (4) 欠席の多い学生について、学科会議等で情報交換し、早期の働きかけを続ける。

以上

2 教育課程①〔教務委員会〕

関連委員会	教務委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 保健師課程の選択制に伴う選抜方法の円滑化
- (2) 平成23年、24年度入学生のカリキュラム変更に伴う問題の抽出
- (3) 平成24年度実習変更による実習場の確保
- (4) 留年生、成績低迷者への指導強化
- (5) 栄養学科は基礎学力の不足する学生の指導強化策の検討と形成評価
- (6) 授業時間外学習時間数の増加のための検討
- (7) 学生のコミュニケーション教育の充実
- (8) 成績判定の協議の円滑化
- (9) 新年度初めのオリエンテーションをスムーズに行うことと評価
- (10) 栄養学科の履修規定の見直し

2 具体的計画

PLAN

- (1) 看護学科の保健師課程選抜試験は面接と小論文の評価と学生への提示方法について検討する。
- (2) 留年生のカリキュラム改正に伴う読み替えをスムーズに行う。
- (3) 実習形態変更に伴う実習場の確保と継続できるよう依頼する。
- (4) 看護学科3年生の実習場での問題など情報交換を行い、学力低迷者にはアドバイザー、学習支援委員会と連携して共通認識のもと指導強化する。4年生は国試に向けて指導強化する。
- (5) 栄養学科は成績低迷者へのレポート指導など継続する。
- (6) 2年生の時間外学習時間が少ないことから学習時間が確保できるよう、科目責任者に課題の提示をお願いする。
- (7) 看護学科は学生が主体的に問題解決できるように複数のコミュニケーション教育の内容を把握し、学科内または単位認定者間で評価を共有する。
- (8) 看護学科は単位認定者会議において、成績や履修態度などの情報を洗い出し、成績判定に反映させる。
- (9) 新年度初めのオリエンテーション評価し、次年度の計画に反映させる。
- (10) 栄養学科は3年目を迎え、履修規定の検討を行う。

3 取組状況

DO

- (1) 保健師課程の選択制に関する事項 — 35名が試験を受け、評価はGPA70%、面接30%で審査して、30名を選抜試験合格とした。プレゼンテーションをしてもらう方法で面接を行ったが、試験室ごとの差がなくなり、良い評価方法であった。
- (2) 看護学科は平成23年度入学生を(B2N)カリキュラム改正に伴い留年生を出さないようにするという目標であったが、4名が留年になった。(うち1名は病気)引き続き指導を強化する。落とした科目は1科目と2科目の学生であった。面接を学部長、学科長で行った。
- (3) 看護学科は平成24年度入学生のカリキュラム改正に伴い実習場確保はおおむね完了した。
- (4) 看護学科3、4年の留年生と成績低迷者への指導 — A9Nの学生は2名実習終了し、4年生に進級予定、B0Nの学生は8名のうち7名が合格し、進級予定である。しかし1名は前学期の1科目が不合格であった。不合格であった科目については、2年間指導を進めている。
- (5) 栄養学科の成績上位10名くらいは非常に成績が伸びている。しかし、下位10名は課題としたレポートを提出しない学生もおり、差が激しくなっている。8月に夏期講座を外部講師にお願い

して行ったが、出席率7割であった。しかし、参加した学生の97.4%は満足したと答えており効果的な企画であった。さらに前学期のみ、2年の成績低迷者には毎週木曜日の13時～16時で勉強会を設け、自主学習の時間を作ったが、回が進むにつれて、参加者が減っていった。1年生には化学の成績低迷者に寺子屋をおこなった。

- (6) 授業外学習時間を増加させる — 看護栄養学部は学外での自習時間は30分未満が21.6%、1～1時間30分は21.2%、1時間30分から2時間は29%、2時間以上は19.8%であった。学内、学外とも学習時間が多かったのは看護栄養学部であった。
- (7) コミュニケーション教育の充実 — 対人関係援助論Ⅰ・Ⅱ、表現方法、人間関係学など科目は多いが、それぞれのつながりが薄いので、今後、科目間の連携強化を図る必要がある。
- (8) 看護学科は4年生全員卒業が決定した。
- (9) 新年度オリエンテーションは学習支援委員会にも応援をお願いして行うことと、来年から防災訓練を入れることになった。
- (10) 栄養学科は履修規定の検討を行う
- ① 再履修科目について
再履修になった対象者は単位修得不可となった学期から直近の当該科目開講期に履修する。他の科目と重複する場合は再履修科目を優先して履修する。
- ② 臨地実習関連科目について
開講順序に従って履修し、単位を修得する。単位修得不可となった場合は、次学期以降に開講される関連科目の履修はできない。以上のことを決定した。

4 点検・評価

CHECK

授業時間外の時間数確保には課題提示なども必要と考える。成績低迷者に対しては、栄養学科は積極的に支援について取り組まれているが、キャリア支援や学習支援とも共同で情報共有し、取り組んでいく必要がある。今年度できなかった項目については継続していく。

5 次年度に向けた課題

ACTION

看護学科成績低迷者への指導については、アドバイザーと協力し継続して行う。アクティブラーニングの方法をすべての教員に1科目は必ず入れてもらうようにしたので、効果判定を行う。ループリック作成に向けて、FD、大学間連携と協働して勉強会等企画して実行する。

以上

2 教育課程②〔臨地実習〕

関連委員会	看護学科実習委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 1年次の基礎看護学実習Ⅰから4年次の総合実習に至る、各学年で実施される臨地実習が実習到達目標に沿って効果的に運営され、安全に配慮しながら円滑に進むようにする。
- (2) 臨地実習中に体験するヒヤリ・ハット体験報告を行う意味を学生および教員に周知する。ヒヤリ・ハット体験報告の分析により、臨地実習中に遭遇しやすい場面やその対処方法について明らかにする。
- (3) 教育向上委員会との連携、委員会内でルーブリックに関する学習会を持ちながら、試験的に基礎看護学実習科目のルーブリックを作成する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) に対して
 - ・それぞれの実習オリエンテーションが学生にとって効果的な動機づけとなるような時期および方法を考慮して行う。
 - ・今年度初めて2年次に実施される老年看護学実習Ⅰが実習目的・目標に沿って効果的に進められるように、具体的でわかりやすいオリエンテーション内容にする。
- (2) に対して
 - ・昨年度のヒヤリ・ハット体験報告の分析を行うことにより、本学および領域ごとの特徴、気づきのきっかけ、体験報告から得られたものを明らかにする。
 - ・分析結果を領域実習オリエンテーションで学生に提示し、報告の意味とその効果を指導する。
 - ・各領域で起こりやすい特徴的なヒヤリ・ハットについて、グループごとの実習オリエンテーション時に事例を用いながら説明し、学生に対する意識付けを行う。
- (3) に対して
 - ・委員会内で、ルーブリックに関する勉強会を実施し、共通理解を図る。
 - ・年度内に試験的に基礎看護学実習Ⅰのルーブリックを作成する。

3 取組状況

DO

- (1) に対して

1年次の基礎看護学実習Ⅰに始まり、4年次に実施される総合実習のオリエンテーションの実施まで、それぞれの学年で行われる実習を円滑に進めることができた。

カリキュラム変更に伴い今年度初めて開始された老年看護学実習Ⅰに関しても、実習目的・目標にそって問題なく進めることができた。
- (2) に対して

昨年度のヒヤリ・ハット体験報告から、件数の多い体験内容、起こしやすい状況を分析し、1年次の基礎看護学実習Ⅰおよび3年次の領域実習オリエンテーションにて具体的な事例を用いて説明した。

3年次の領域実習オリエンテーションでは記載見本を学生全員に配布した。記載見本から体験報告書を具体的にイメージすることで、体験を振り返る意味を強調した。

教員に対しては、学科会議にて報告書を提出する目的・目標を再確認し、さらに学生が報告書を記載する際の指導をお願いした。

毎月の委員会では、ヒヤリ・ハット体験報告の提出状況と概要について共通理解し、臨地実習指導に活かすように進めた。

(3) に対して

7月に実施された基礎看護学実習Ⅰのルーブリックを作成し、基礎看護学領域の専任教員に試行してもらった。また、大学内のルーブリック学習会で提示し、他学部の教員からも助言を得た。どの領域にも共通する要素として、委員会内で看護過程のルーブリックを試行的に作成した。

4 点検・評価

CHECK

(1) に対して

今年度から開始された老年看護学実習Ⅰ、およびその他の臨地実習において、大きな問題はなく円滑に進めることができた。

(2) に対して

領域実習のオリエンテーションで具体的な事例を用いて説明をしたこと、見本を配布したことで、学生にヒヤリ・ハット体験報告を書くことの意味づけができたことと評価できる。例年、ヒヤリ・ハット体験報告が提出されない領域から複数の報告があり、教員がヒヤリ・ハット体験を起こしやすい状況を意識して指導したことが伺われる。

(3) に対して

基礎看護学実習Ⅰのルーブリック作成を試みる事ができた。さらに委員会内でルーブリックの共通理解を進めることができた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- 1) 平成26年度開始の成人看護学実習Ⅰは学科全体で取り組む科目のため、効果的な実習が進められるように関連領域との連携を図る。
- 2) 今年度は、臨地実習に際して、SNSを含む個人情報の取り扱いに関する問題が起きた。来年度は学生が実際に起こした事例を基に、より詳しい内容でオリエンテーションを行い、軽率な行動を起こさないような学生指導を目指す。
- 3) 関連する委員会と連携しながら、引き続き各領域の実習に関わるルーブリックの作成および試行に積極的に取り組む。

以上

2 教育課程③〔看護学科〕

関連委員会	看護学科
関連部署	看護栄養学部
関連データ	

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

教育目標を受けて他の委員会と協働し、教員が研究成果を上げ、教育力を高めることができ、学生の学力向上とやる気のある学生を育成するための運営を行う。

- (1) 国家試験合格 100%
- (2) 入学試験で、優秀な学生の獲得
- (3) 大学間連携事業への協力
- (4) 教員の地域への貢献 — 学生ボランティアの推進
- (5) 留年者の把握（学年の傾向、科目、学生のやる気など）を密に行う
- (6) 教員の教育力の向上、研究への取り組み強化

2 具体的計画

PLAN

- (1) キャリア支援委員会、学習支援委員会と連携して国家試験対策を行う。
特に成績低迷者にはアドバイザーもかかわり、個人的な支援を行う。
- (2) 広報活動への教員の参加（出張授業）、オープンキャンパスの充実、それぞれの領域で特徴をだし、魅力ある大学の広報を行う。
- (3) FDと連携し、領域でのルーブリック作成をおこなう。科目の客観的な評価ができるように教員の学習する機会を設ける。
- (4) 地域連携委員会
正課外授業としてボランティア講座が始まったが、活性化に向けて地域連携委員会と調整する。
- (5) 留年生についてはアドバイザーの指導を密に行う。
- (6) 自己管理目標制度による教育研究活動計画を立案したが、目標が達成できるよう、学科会や研究公開委員会などを通じて発表の機会を持つ。

3 取組状況

DO

- ① 平成22、23、24年とそれぞれ異なるカリキュラム進行による問題、シラバスの検証
オムニバスの科目で単位認定者が評価していないものがあつたので、担当者に注意を促した。留年者を出さないようアドバイザー強化を図った。
- ② 魅力ある大学、入学希望者の増加 — 入試広報委員会と協働
一般入試の希望者は看護学科（47名）も栄養学科（24名）も増加した。しかし看護は昨年より志願者は指定校レベルの学生が増加したが、二次試験で欠席者が目立ち、歩留まりが悪くなった。看護は合格者114名が手続きを終了、栄養は82名が終了した。
- ③ 教員の教育力向上と学術研究活動
FD委員会による教員研修会が開催された。大学間連携共同教育推進事業についての説明がなされ、アンケートが開始された。（アクティブラーニングなど）
科研費の申請者8名のうち1名が採択され、そのうち大学研究助成に4名の応募があつた。
- ④ 国家試験 — キャリア支援委員会との協働
国家試験合格率95.9%であつた。残留の1期生がすべて受験した。
- ⑤ 地域への貢献
地域連携委員会主導のひだまりでの活動やイキイキサロンの活動、来期からボランティア論の正課外授業が決まった。4月から土曜日に10回行われた。

4 点検・評価

CHECK

成績低迷者や留年者には各アドバイザーから適宜指導を強化している。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ① 国家試験 100%合格
- ② 魅力ある大学、広報活動へ教員の参加、オープンキャンパスの充実
- ③ 大学間連携事業への協力
- ④ 教員の地域への貢献 — 学生ボランティアの推進
- ⑤ 留年者の調査（学年の人数、科目、学生のやる気など）
- ⑥ 教員の教育力の向上、研究への取り組み強化

以上

第1部

Ⅲ 学部・研究科等による取組み

2 千葉第2キャンパス

2 教育課程④〔栄養学科〕

関連委員会	栄養学科
関連部署	
関連データ	

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

看護栄養学部栄養学科の活動方針は以下の通りである。

- (1) 入学者の定員（80名）確保
- (2) 授業内容の充実・基礎学力の向上

2 具体的計画

PLAN

- (1) 入学者の定員（80名）確保

オープンキャンパス等において受験生はもとより、保護者に対して本学科の目的・方針などを十分理解できるように丁寧な説明を心がける。また、高等学校への出張講義などには積極的に対応する。また、アドミッションオフィス、入試課、広報担当などの関連部署と密接な打ち合わせをして齟齬の無いようにする。

- (2) 授業内容の充実・基礎学力の向上

法律の改正、新規事項の追加、管理栄養士国家試験の出題範囲などを盛り込み、新鮮味のある充実した、かつ分かる授業を展開する。それぞれの専門分野において、管理栄養士の国家試験を念頭に置いたより専門性の高い授業を展開し、管理栄養士の重要性を認識させる。

3 取組状況

DO

- (1) 入学者の定員（80名）確保

平成25年度のオープンキャンパスの来場者数は前年度を下回り、26年度AO入試、推薦入試の志願者数も減少した。しかし、両入試で定員80名のうち48名を確保できた。その後の一般入試、センター試験利用入試の志願者数は前年度を上回り、定員確保は確実と思われたが、入学辞退者数が多くなり平成25年度は80名の定員確保ができず、76名の入学生にとどまった。

設立2年の経過で、栄養学科の存在が知られていないことなどから、出張講義、学科説明会等に積極的に参加し、栄養学科の存在を知らしめる必要がある。さらに、本学入試広報担当者とも密接に打ち合わせをして、高校訪問を重ね、栄養学科、管理栄養士の魅力をアピールしたい。

- (2) 授業内容の充実・学力の向上

1年生に対しては化学、生物に関する基礎学力の不足学生がみられ、補習を実施した。2年生は専門に関する実験・実習科目も多くなり、目的意識も若干高まった。管理栄養士の国家試験を念頭に置いた内容で毎週木曜日の午後1時から4時30分まで勉強会を実施した。更に、講義などの終了時に、キーワードのレポート課題を提出させた。

なお、平成27年度より国家試験日及び合格発表の早まりなどの知らせがあり、今後、それに沿った体制を組む必要がある。

4 点検・評価

CHECK

1年次生の定員確保はできたが、進路変更、経済的理由、健康上の理由から5名が退学した。その要因として学科内容の理解不足、学費・生活費をアルバイトや奨学金に頼っての生活が大きな負担となったことが考えられる。オープンキャンパスなどにおいて十分な学科内容の説明が必要と考える。栄養学科の最終目標は管理栄養士の国試に合格することである。そのための対策として、様々な方策を取り入れたが、学生が消化しきれなかった面があり、一方的にならないように工夫する必要があると考える。

また、長時間のアルバイトで、遅刻・欠席が多くなる学生が見られる。奨学金の趣旨をよく理解させ継続的な勉強ができるように指導を徹底する。

- 1) 定員80名の確保
- 2) 基礎学力の向上
- 3) 家庭料理技能検定試験の実施
- 4) フードスペシャリスト試験の実施
- 5) 研究の推進

以上

第1部

Ⅲ 学部・研究科等による取組み

2 千葉第2キャンパス

3 教育組織〔教育向上委員会〕

関連委員会	教育向上委員会
関連部署	
関連データ	・ Faculty Development 成果報告書 平成25年度看護栄養学部

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

大学間連携共同教育推進事業「主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築」を実現するために、アクティブ・ラーニングの推進及びルーブリックの開発に着手できるよう、具体的かつ効果的な授業公開や教員研修を行う。

2 具体的計画

PLAN

1. 授業アンケート

- 1) 全学統一授業アンケート用紙を用いて、「授業アンケート」「実習アンケート」を実施する。
- 2) 前年度からの課題としてあげられていた、学生がアンケートの結果について興味・関心をもつように工夫する。

2. 教員研修

- 1) ルーブリックの開発に着手できるように、1回目（前学期）はルーブリックについて、全教員による基本的な知識の共有を図ることをねらいとした研修会を開催する。
- 2) 2回目（後学期）は、実習科目について作成したルーブリック試案について検討する研修会を開催する。

3. 授業公開

- 1) 講義（演習、実習科目は除く）科目について、アクティブ・ラーニング（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど）を取り入れている授業について公開を依頼し、次年度からの導入の参考となる機会とする。
- 2) オープンシステムの授業公開は継続して実施し、科目間・教員間連携をさらに促進する。

4. 成果報告書の作成

- 1) 教員の改善努力及び、学生の授業外学習時間が増加した事例等について、具体的な教員の取り組みや工夫等について紹介し、教員・学生が興味・関心をもって、活用できる報告書の作成を考える。

3 取組状況

DO

1) 授業アンケート

授業アンケートを確実に実施するため、アンケート実施希望日の事前調査を行った。

2) 教員研修

- (1) 大学の教育目標を全教員が理解・共有するために、カリキュラム・マップの作成に向け看護学科ではカリキュラムポリシーと科目群との関係を検討した。栄養学科では、完成年度以降のカリキュラムの見直しも視野において、現行のカリキュラムの課題を見出した。
- (2) ルーブリックについて
ルーブリックの開発に着手できるように、全教員による基本的な知識の共有を図るため、矢尾板俊平先生（淑徳大学コミュニティ政策学部准教授）に「ルーブリック入門」の講演を依頼し、ルーブリックについて基本的な考え方、必要性などについて詳しい説明を受けた。

3) 授業公開

- (1) 大学の方針・実施方法に従い、組織的に全員参加できるように、参観希望について調整を行った。
- (2) 講義科目について、大学で推進しようとしているアクティブ・ラーニングを取り入れている科目についてはそれを明らかにし、参観しやすいようにした。

4) 成果報告書の作成

基本的には昨年度との比較をするため、同様な形式で作成することとした。

特集として、学生の授業外学習時間が増加した事例等について具体的な教員の取り組みや工夫等について紹介し、教員・学生が興味を持って活用できるようにした。

4 点検・評価

CHECK

教員研修については、当初の計画ではループリックについて2回研修を行う予定であったが、カリキュラム・マップの作成に向けての研修を行ったため、1回しか行えず、ループリック試案の検討まではできなかった。今回行った研修項目については、大学の方針でもあり、今後も引き続き同様な研修を行ったほうが良いと思われる。

授業公開については全教員参加とはならなかった。学科会などで複数回アナウンスしたが協力が得られなかった。これらについては検討の必要があるように思う。

学生がアンケートの結果について興味・関心を持つようにするため、年度初めのオリエンテーションの時に、授業アンケートについて説明し、フィードバックについてもある程度説明をした。しかし、これらの説明が、授業アンケートについて興味・関心を持てるようになったか否かについては確認ができていない。

5 次年度に向けた課題

ACTION

目標として掲げたアクティブ・ラーニングの推進に向けて授業公開などを通してより積極的に働きかける必要がある。

ループリックの開発に向けての教員研修会を行い、実現できるようにしていく。

以上

4 学生支援①

関連委員会	学習支援委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 12月に入学前テスト（化学、生物）、4月に入学時学力確認テスト（化学、生物）を実施する。
 (2) 4月に補習を実施する。補習の出席率は90%以上とする。補習内容を、高校で学んだ化学と生物の基礎を理解させるものから、自然科学を理解するための基礎知識を身に付けさせるものに転換させていくための活動を始める。
 (3) 看護学科では、2・3年生にCBTを行う。

2 具体的計画

PLAN

平成25年度 学習支援委員会 活動予定表

時期	項目	対象学科	対象学年	内容	課題
4月	オリエンテーション プレイズメントテスト	両学科	1年生	新入生の化学・生物の学力測定	
	CBT	看護学科	2・3年生	2クラスで実施	栄養学科 3年生
4月～5月	補習授業	両学科	1年生 (選抜)	プレイズメントテスト結果に伴う化学・生物の補習（吉沢先生・根本先生に依頼）7コマ	
通年	レポート課題	栄養学科	1・2年生	専門教育科目の授業時に毎回レポート課題を課す。	
	自主学习	栄養学科	1・2年生	成績低迷者による教室での学習（1年生は後学期のみ）	
6月～8月	臨地実習前セミナー	看護学科	3年生	7コマ	
8月	CBT	看護学科	3年生	臨地実習前セミナーの最終日に実施	
10月	寺子屋	両学科	1年生 (選抜)	人体の構造と機能の補習 GPAと授業態度等を判断基準に対象学生を選抜した学生の補習	
12月	入学前準備セミナー 小テスト	両学科	入学予定者 (AO・推薦)	入学予定者の化学・生物の学力測定	
	入学前教育①	両学科	入学予定者 (AO・推薦)	委託業者によるAV教材の斡旋	効果は期待できる が受講者が少ない
	入学前教育②	両学科	入学予定者 (AO・推薦)	入学予定者への化学・生物の課題 2回提出（1月・2月）	
	入学前教育③	両学科	入学予定者 (AO・推薦)	入学予定者への課題（英語、情報、 課題レポート）入学時に提出	内容の見直し
新規	低学力学生の追跡指導	両学科	1～3年生 (選抜)	教育アドバイザーとの連携による定期的指導	

- 看護学科では、内容の見直しを図りつつ従来の計画に沿った活動を行う。
- 栄養学科では、管理栄養士国家試験受験対策が円滑に進むようにするための一助として、レポート課題（1・2年生）、自主学习（1・2年生）、寺子屋（1年生）等を試みる。

3 取組状況

DO

- ・4月上旬には、入学者全員を対象に入学時学力確認テスト（化学、生物）を実施した。
- ・4月中旬から5月にかけて、入学時学力確認テストの成績が振るわない学生を対象とした補習授業を行った。あわせて、授業の中身を、自然科学を理解するための「基礎力」を付けさせる方向に転換する方針を立てた。
- ・看護学科では、従来の計画に沿って臨地実習前セミナー（3年生）、CBT（2・3年生）、寺子屋を実施した。
- ・栄養学科では、管理栄養士国家試験受験対策を円滑に進めるための一助として、レポート課題（1・2年生）、自主学習（1・2年生）、寺子屋（1年生）を実施した。
- ・12月下旬に、入学前準備セミナーを実施した。入学予定者には小テスト（化学、生物）を受けさせ、出来具合に応じて学習指導を行ったほか、化学・生物、英語、情報、課題レポート（新聞コラムの読み込み）等の課題を与えた。あわせて、教職員からの推薦図書を紹介した。
- ・次年度早々からの入学時学力確認テスト（化学、生物）、補習授業、CBT等が円滑に実施できるようにするための諸準備を行った。補習授業については、化学、生物の両科目受講の必要な入学生が見受けられるので、該当学生が両科目を受講できるよう時間割を工夫した。

4 点検・評価

CHECK

- ・補習授業の出席率は、化学・生物全体で89%であったことから、当初の目標（90%以上）をほぼクリアーできた。
- ・その他の事項についても、予定通り実施できた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

入学生の基礎学力不足が懸念されることから、補習授業については、「化学と生物の基礎学力を身につけさせる」というこれまでの考え方を、「科学を学ぶことができるようになるための基礎力を身に付けさせる」方向に転換させる必要がある。

以上

4 学生支援②〔学生厚生〕

関連委員会	学生厚生委員会
関連部署	
関連データ	・奨学金給付・貸与状況 ・学生相談室利用状況 ・学部・学科の退学者数(表7〔※表14〕)……………P.254 ・課外教育補助等(表16〔※付表5〕)……………P.284

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

看護栄養学部看護学科、栄養学科の学生の学習の奨励及び学生生活の支援をする。

- (1) 奨学金給付者及び貸与者の適正な選考
- (2) 学生諸団体の活動上の指導

2 具体的計画

PLAN

- (1) 奨学金給付及び貸与者の適正な選考

淑徳大学特別給付奨学金、淑徳大学一般給付奨学金、淑徳大学貸与奨学金、淑徳大学千葉協賛会奨学金及び日本学生支援機構奨学金などがある。その選考に当たっては、それぞれの目的に応じた対象者に給付されるように適正な選考を行う。

- (2) 学生諸団体の活動上の指導

本学部では5団体が活動している。その活動は学内外施設で行われている。本委員会として諸団体の活動を把握し、適切な指導を行う。また、1年生で音楽を履修している学生達が中心となり、『淑徳ハーモニッククラブ』のクリスマスコンサートを行っているが、今年度もその活動を支援する。

3 取組状況

DO

- (1) 奨学金給付者及び貸与者の適正な選考

淑徳大学特別給付奨学金・淑徳大学一般給付奨学金、淑徳大学貸与奨学金、千葉協賛会奨学金及び日本学生支援機構奨学金の給付者はそれぞれ、8名、13名、及び93名であった。また、海外研修奨学金給付者は6名であった。その選考は経済的状況、GPA等を基に学部長、学科長、学生厚生委員が行った。それぞれの奨学金の目的に応じ、給付希望者に対する選考ができたと考えられる。

- (2) 学生諸団体の活動上の指導

5団体が活動し、その活動は隣接の千葉東病院体育館の借用等で行われている。

一昨年は当該施設よりその使用が不適正であるとの指摘があった。顧問を通しての指導の徹底などから今年度は適切に活動が進んだと考える。また、1年生の音楽を履修している学生が中心となり、音楽担当教員の指導の下「淑徳ハーモニッククラブ」は平成25年12月12日(木)同病院内でクリスマスコンサートを行った。多数の同病院入院者が来場し喜ばれた。

4 点検・評価

CHECK

学費・生活費を奨学金以外にアルバイト収入に依存する学生が多くみられる。特に深夜までアルバイトに従事し、その結果として、遅刻・欠席が多い学生が見られる。このことが原因で休学・退学の方角へ向かう学生が見られる。奨学金の趣旨をよく理解させ継続的な勉学ができるように指導した。また、犯罪被害予防、交通事故防止、インフルエンザ予防接種の奨励を掲示等を通して行った。また、ツイッター書き込みへの注意をしてきたが、該当者が数人見られ注意指導した。

両学科の学生の学習の奨励及び学生生活の支援をするため、次年度に向けて以下のような目標を掲げる。

- 1) 奨学金貸与者の適正な選考
- 2) 学生団体の活動上の指導
- 3) 休学、退学などの適正な指導
- 4) 龍澤祭への参加
- 5) その他学生厚生に関する項目の適切な履行

以上

5 就業支援

関連委員会	キャリア支援委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 国家試験対策

- ・看護師国家試験合格率100%、保健師国家試験合格率100%にする。
- ・看護学科の留年生や学力低迷者を早期から小集団で指導することにより合格に導く。
- ・平成24年度看護師国家試験不合格者3名について、今年度の合格に導く。
- ・低学年（2年生・3年生）の学生に日頃から国家試験を意識した学習を促す。

(2) 就職・進学支援

- ・看護学科の学生について、就職希望者は100%にする。
- ・千葉東病院への看護師就職者を増やす（目標20名）。
- ・進学希望者の希望が叶うように支援する。

2 具体的計画

PLAN

(1) 国家試験対策

- ・国家試験対策として看護師模擬試験5回、保健師模擬試験3回実施予定。
- ・10月の看護師模擬試験の結果から保健師受験を熟考すべき学生に指導する。
- ・国家試験対策委員を選出し、模擬試験や国家試験へ向けた学習がスムーズに実施できるよう学生間、学生と教員との連携を大切にする。
- ・留年生や学力低迷者には早期から学生に合わせた問題を解かせるなど学習を促す。
- ・平成24年度国家試験不合格者3名について今年度の国家試験への受験の意志を確認して、できる支援を行っていく。
- ・低学年（2年生・3年生）に向けた専門業者による講座を開催する。3年生を対象に3月に低学年模擬試験を実施し、学生各自が結果の振り返り、その後に活用できるように指導する。
- ・栄養学科2年生に向けた専門業者による講座を開催する。
- ・栄養学科の保護者へキャリア支援プログラム（国試対策夏期集中講座、就職支援ガイダンス等）の取り組み状況を文書で報告する。

(2) 就職・進学支援

- ・看護学科対象の就職個別相談会を実習病院を中心に開催し就職への後押しとする。希望を考慮した就職支援を強化していく。
- ・栄養学科の学生を対象に就職ガイダンスを開催する。
- ・2、3年生に公務員対策講座やマナー講座を開催する。
- ・保健師就職希望や助産師学校への進学希望者は、キャリア支援委員の他、他の教員と連携し必要なアドバイスも受けながら受験するように促す。

3 取組状況

DO

(1) 国家試験対策

- ・模擬試験は看護師5回、保健師3回実施し、できない項目を振り返り理解を深めるように指導した。また、保健師受験希望者のうち看護師国家試験の合格が難しい学生には看護師国家試験に専念するように指導した。
- ・看護学科4年生前学期における学力低迷者への支援は、低学年模試、実習前セミナーの学習状況、実習等での学習状況等より対象者を抽出し勉強会を実施した。
- ・4年生対象の国試対策講座は、学力強化講座、夏期講座、秋期講座、保健師国家試験対策講座および点数が伸びない学生を対象に特別講座を専門業者に依頼した。

- ・平成24年度国家試験不合格者3名は、年度当初から試験対策の支援を行った。
- ・低学年（2、3年生）向けに専門業者による講座を実施（看護学科6月、栄養学科5月、8月）した。
- ・栄養学科の保護者に、国家試験、就職に関する支援についての文書を送付した。

(2) 就職・進学支援

- ・看護学科では4月に就職個別相談会、千葉東病院就職ガイダンス、6月には専門業者による履歴書の書き方等の就職支援講座、3年生向けに8月に専門業者によるマナー講座を開催した。
- ・公務員試験対策講座は専門業者による公務員試験対策講座（6月、3月）を実施した。
- ・栄養学科の学生に就職ガイダンスを実施した。

4 点検・評価

CHECK

- ・看護師国家試験合格率は95.9%、保健師国家試験合格率98.3%となり、100%合格には届かなかった。
- ・留年生や成績低迷者への支援は早期から実施した。
- ・平成24年度看護師国家試験不合格者3名全員が受験し、2名が合格した。
- ・看護学科の就職希望者の就職率は100%となり、目標を達成した。
- ・千葉東病院への就職希望者は18名、合格者は17名となった。
- ・国家試験対策に関わる支援は計画通り実施し、学生には学習のよい機会となった。
- ・助産師課程進学希望者2名は希望通り進学することができた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ・次年度より保健師国家試験受験生が30名程度となるが、より保健師志向が高まると考えられるため、公務員試験対策の強化が必要となる。また、入学時から看護師、保健師国家試験の両受験をめざすためには相応の準備が必要であることを保護者も含めて周知していくことが必要である。
- ・公務員講座については、栄養学科の受講生が増えたため、今後、栄養学科教員との連携が必要である。
- ・実習施設との今後の関係性の維持のためにも卒業生の動向を把握することも重要である。
- ・今後、教員採用試験の受験を希望する学生が多数いることを確認できれば、教務委員会、教職課程委員会と連携しながら教員採用試験対策の講座を開催する。
- ・栄養学科では次年度末から学生の就職活動が始まるため、就職活動への意欲を高めるような環境づくりと就職支援体制を充実させることが必要である。
- ・キャリア支援委員会では国家試験対策と就職支援の2本立てとなっているが、学生の教育の目標として国家試験合格、就職内定のみを最終目標とせず、卒後の活動を睨んだ支援を目標にしていく必要があると考える。

以上

6 研究活動①〔研究倫理審査委員会〕

関連委員会	研究倫理審査委員会
関連部署	看護栄養学部
関連データ	

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 速やかな審査会の開催と迅速な結果報告を行う。
- (2) 研究の質の向上を目標に、問題点を検証し啓発活動を行っていく。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 委員会は中止無く、定例開催を実施することとし、報告は一両日中に実施することとした。
- (2) 計画書を指導することは、当委員会の業務ではないが、基本的な事項については、申請者への報告時にアドバイスを行うこととした。

3 取組状況

DO

- (1) 日程調整を事務担当が実施し、定期開催をすべて実施した。報告も1～2日で実施した。
- (2) 委員会で出された意見を報告書外のその他としてアドバイスに生かした。

4 点検・評価

CHECK

- ・計画した内容は達成された。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ・倫理教育を目的とした研修会の開催をし、研究予定職員の受講義務について討議してゆく。
- ・申し合わせ事項等関連規定の見直しを行う。

以上

6 研究活動②〔研究公開〕

関連委員会	研究公開委員会
関連部署	
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

2 千葉第2キャンパス

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 淑徳大学看護栄養学部紀要「第6号」を発刊する。
- (2) 看護栄養学部「研究報告会」開催規定を作成し、研究報告会を開催する。

2 具体的計画

PLAN

- ・紀要「第6号」については、栄養学科新任教員に寄稿の働きかけを行う。
- ・「研究報告会」規定については、昨年度に作成されている案を参考にしながら、前学期中に具体化をはかり、本規定をもとにして研究報告会を開催する。

3 取組状況

DO

- ・紀要「第6号」を今年度内（平成26年3月中旬）に発刊するための年間実施計画を立案し、それに基づき編集活動を行った。その過程で、新任教員に寄稿の働きかけを行うこと、投稿申込締切を9月下旬とすること、原稿提出締切を11月末日とすること、栄養学科開設1周年記念講演の内容を組込むことなどを申し合わせた。
- ・本委員会が主催する「研究報告会」を今年度で開催させるべく活動した。なお、開催規定は設けずに、看護栄養学部運営会議「申し合わせ」第5項「研究成果の報告」を適用することとした。研究報告会「発表要項」を作成し、本要項に基づき8月2日に研究報告会を実施した。

4 点検・評価

CHECK

- ・紀要「第6号」については、原著2編、研究報告4編、実践報告1編、資料2編、その他1編で構成されるものを発刊できた。
- ・研究公開委員会主催「第1回研究発表会」を、8月2日（金）17時～18時に実施できた。本発表会に対し、参加者から「大変良かった」「良かった」とする評が寄せられた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

紀要編集に関して

- ・査読担当者には本委員会で作成した「ガイドライン」に沿って査読していただけたが、投稿者と査読担当者間で「十分なやり取り」が必ずしもできていない。
- ・原著に対する考え方や方針を学部全体で論議しておく必要がある。

研究報告会に関して

- ・本学部教職員ならびに学生が参加できる日時の設定に手間取った。「研究報告会」を本学部全体の行事として捉え、開催日時を年度当初に決定しておく必要がある。
- ・広報の仕方や発表形式について、さらに検討を加える必要がある。

以上

7 社会貢献

関連委員会	地域連携委員会
関連部署	
関連データ	平成25年度淑徳大学看護栄養学部 ボランティア講座活動報告書

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 地域との連携事業における計画的な運営と成果を高める。
- (2) 平成25年度開講のボランティア講座を効果的に運営する。
- (3) 学生ボランティアサークルの活性化とリーダーの育成に向けた基盤をつくる。

2 具体的計画

PLAN

- 1) 地域との連携事業の運営と成果
 - ① 連携事業における健康栄養相談、健康チェックを月2回実施する。
 - ② 松ヶ丘地区行事及び地域活動への参加を計画的に進める。
 - ③ 地域との定例会議への出席を通して大学の知名度を上げる。
- 2) ボランティア講座の効果的な運営
 - ① 公開講座制とし、学内教職員、地域住民等幅広く情報公開・PRを行い、講座の認知度を高める。
 - ② 学生のボランティア実践において、地域との連携を密に図り、協働参画を促す。
 - ③ 外部講師、教員間、事務部との連携を図りスムーズな講座運営ができるようにする。
 - ④ 受講学生の状況・ニーズを把握し、主体的な参加ができるよう配慮する。
- 3) 学生ボランティアサークルの活性化とリーダーの育成
 - ① 学生ボランティアが活動できる場を提供できるよう、地域との連携をはかる。
 - ② ボランティアサークルのシステムの再編をし、サークルとしての基盤固めを図る。

3 取組状況

DO

- 1) 松ヶ丘地区との連携協働事業である『ひだまり』、健康教育（健康・栄養講話・相談）について今年度は平成25年6月～平成26年3月までの合計18回実施した。地域の要望により今年度は担当する教員の専門分野を生かした“健康講話”を設けた。講話の聴講者の述べ人数は、平成26年2月末現在で392名であった。
また、地域活動への参加では、ボランティア講座の学生および担当教員を中心に年間計画にそって活動した。これまで地域行事等への参加が殆どであったが、今年度は地域の幼稚園、小中学校や病院、福祉施設などの活動にも参加し活動の場を広げた。その結果、松ヶ丘地区行事・地域活動、その他地域へのボランティア参加延べ人数は126名であり、昨年度（46名）と比較し、約3倍増であった。
- 2) ボランティア講座の効果的な運営については、今年度開講されたボランティア講座の受講希望者は72名の登録があったが、修了予定者は22名で、修了者の割合は30%であった。ボランティア講座の年間スケジュールに沿い、毎月1回開講し、合計10回の講座を実施した。また、講義は公開講座制として、地域の方々が6名出席された。地域の方々からは、今後の継続的な参加を希望されている。
- 3) ボランティア講座を修了した学生を、今後も継続的なボランティア活動ができる場づくりとして、また今後講座の学生の指導的役割を担いリーダーシップを発揮してもらいたいとする意図のもと、今年度は基盤作りの年と位置付け、ボランティアサークルの再編の組織づくりを行なった。次年度に向けて実施する。

地域の拠点“ひだまり”における地域住民への健康教育は、今年度新たな試みとして健康栄養講話を実施した。参加者からは好評を得ており、回を重ねるに従い参加者が増えていることから地域住民の健康への意識づけの一助となったのではないかと考える。地域からは次年度以降も継続した活動を期待されており、次年度も協働連携事業を継続していく方向で検討する。

松ヶ丘地区および地域活動への参加については、ボランティア講座の学生の参加を得て、大幅に活動範囲・活動者数を広げることができた。次年度もさらなる活動範囲の拡大とボランティア講座の学生、ボランティアサークルの学生を巻き込み、参加者を増やしていきたい。

ボランティア講座の修了生の割合率は登録者の30%であり、目標であった40%の達成には至らなかった。その原因として、土曜日の開講ではあったが他科目と重なってしまったことで早期から脱落者が多数発生したことが要因であると考え。今後は学部との日程調整を図っていく必要がある。次年度から新たに発足するボランティアサークルをボランティア講座受講の学生とともに効果的なボランティア活動への参画ができるよう運営方法を検討する。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- 1) 地域との協働連携事業を継続し、地域住民の健康意識を高める。
 - ① 協働事業（ふれあい広場ひだまり）の健康教育を継続する。
 - ② 地域行事・地域活動への計画的参加、成果を高める。
- 2) ボランティア講座の効果的な運営を図る。
- 3) ボランティアサークルの育成を図る。
- 4) 地域連携委員会活動における地域・教職員・学生への情報発信の強化を図る。

以上

8 図書室〔千葉第2〕

関連委員会	図書室運営委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 平成25年度の図書選書予算に基づき、図書と視聴覚資料の購入を適正に行う。
- (2) 図書室の環境をより向上させ、学生の図書利用をさらに充実したものとする。昨年度後学期の一ヵ月平均の貸し出しが、学生1人当たり2.2冊であった。今年度は、3冊程度を目標値に掲げる。
- (3) 学生・教員が共通で卒業研究や研究などに利用する文献検索などにおける on line system の活用を図る。
- (4) 2年目を迎えた栄養学科の図書の充実を図る。
- (5) 夜間開館時間の延長を図る。

2 具体的計画

PLAN

- (1) について
 - ① 購入を希望する図書やDVDなどに対して、速やかに対応する。
 - ② 6月20、21日 9時～17時に、図書室で志学書院による図書の内覧会を実施する予定である。この機会を利用し、本年度の図書選出・購入の時期が適正に実施できるように推進する。
- (2) について
 - ① 現場よりの声を聴きつつ、可能な範囲で環境整備に努める。
 - ② 学生の図書貸し出し数は、年ごとに増加しているが、今後、各領域においても、さらに利用の活性化に結び付くような課題作成などを考慮する。
- (3) データベース検索を中心としたガイダンスは、今年度は看護学科3年次生に向けての実施にとどまる。
- (4) 栄養学科の図書購入予算は、今年度は昨年度の300万円から400万円と増加する。これまでは、栄養学科の選書に関して「領域共通」であったが、今年度の間に、学科内でのコンセンサスが必要である。
- (5) 現行の19時20分閉室を、20時閉室（19時50分退室）に変更する。

3 取組状況

DO

- (1) について
 - ① 購入を希望する図書やDVDに関して、予算の範囲内で速やかに対応した。
 - ② 図書の内覧会を、前学期には6月20日、21日、後学期には12月13日の2回に亘り、新刊書を中心に実施した。購入図書の充実など一定の成果を見た。学生よりの選書希望も出された。
- (2) について
 - ① 図書室の環境は概ね良好である。室温は場所による差がみられるが、随時対応をするようにしている。DVDの書庫が手狭になってきている。
 - ② 学生の図書利用は、24年度後学期の1ヵ月平均貸出は、学生一人当たり看護学科は2.2冊、栄養学科は0.2冊であった。今年度の利用状況は、看護学生が2.7冊、栄養学生が0.6冊であった。教員には科目の中での図書利用率向上の工夫を依頼した。
図書室では、「読書ポイントカード」制度を設けて図書利用推進を図っている。
- (3) on line system を利用した data base 活用方法などのガイダンスは、看護学科3年次生に対して、紀伊国屋の教育担当講師が2回実施した。
- (4) 栄養学科の図書の充実の予算が400万円と前年より増加した。DVDや図書選書にあたって、学科内で、緩やかな領域単位での推進を図った。蔵書数も増加している。

- (5) 司書の勤務体制、管理体制、スクールバスの運用、それらに係る経費などを勘案しつつ計画を推進した。その結果、26年度4月7日の夜間開館開始より、30分延長し、夜間7時50分まで開館の延長となった。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 視聴覚資料や図書選書に関しては適正に実施されている。
栄養学科では、委員からの働き掛けも活発であり、順調に選書が行われたが、一部予算消化が不十分であり、まだ改善の余地がある。
- (2) について
- ① DVDの保管場所などに関して、検討を要する。
- ② 看護学生の図書利用状況は、1人当たり1カ月当たりの貸し出しは2.7冊であり、昨年の2.2冊よりは増加したが、目標の3冊には及ばなかった。
栄養学科のそれは0.6冊であった。今後実習開始や、学生の増加によってさらに図書室利用が活性化することを推進する。
「読書ポイントカード」制度への大学としての協力が要請されている。
- (3) 新入生オリエンテーションやon line systemを利用したdata base活用方法などのガイダンスは、更に手厚く実施する必要がある。
- (4) 栄養学科関連の図書の充実に関して、蔵書は適正に増加している。
- (5) 夜間開館時間の延長に関しては、入念な計画のもと、実行に至った。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 外国雑誌の値段が高騰している。看護学科の図書も充実しつつあるので、書籍の予算の一部を、雑誌の予算へのシフトを考えたり、購読雑誌の見直しをする。
- (2) 図書室の利用の活性化を引き続き推進する。
特に栄養学科の学生へ、図書室利用の啓発が必要と考える。
- (3) data base活用方法などのガイダンスは、看護学科は2、3年次生に、栄養学科は3年次生に実施する。
- (4) 栄養学科の学生が3学年まで揃うので、実習や国家試験向けの図書の充実を図る。

以上

9 その他〔自己点検評価〕

関連委員会	自己点検評価委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成25年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 学部の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化のため、各学科、各委員会の活動にPDCAを今年度も継続して実施する。
- (2) 大学と学部の教育理念・目的、人材養成の目的、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーが整備されたのを受け、各学科（特に看護学科）のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーの検討を開始する。
- (3) 教育・研究・管理運営に関する目標・成果指標について、平成27年度までの目標と今年度の目標を提示し、学部の目指す方向性の共有を図る。
- (4) 大学基準協会の認証評価で指摘された事項に対する改善のための工程表を再度確認し、今年度の改善事項を実施する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) について
 - ① 各学科、各委員会から5月中に活動計画を提出させ、自己点検評価委員会で点検する。当年度の学部学科の方針と合致しているかについて各学科、各委員会と調整を行った後、教授会に提案する。
 - ② 各学科、各委員会から年度末に報告書を提出させ、自己点検評価委員会で点検評価する。活動報告結果の取り扱い方法については、早急に検討する。
- (2) 各学科（特に看護学科）のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーの内容を見直すとともに、大学の記述方針に従って記述されているか、相互に整合性のある記述になっているかを点検する。
- (3) について
 - ① 平成27年度までの目標と今年度の目標を4月の教授会にて提示する。
 - ② 年度末に今年度の目標の達成度を評価し、来年度の目標を立てる。
- (4) について
 - ① 5月中に工程表を再確認し、今年度行うべき改善事項を明確にする。
 - ② 各委員会の協力を要請しつつ、計画的に改善を実施する。

3 取組状況

DO

- (1) について
 - ① 各学科、各委員会の活動計画は、5月中にすべて提出された。本委員会で今年度の学部学科の方針と一致しているかについて点検し、各学科、各委員会と調整した後、6月の教授会で提案した。
 - ② 活動計画書に基づく活動報告書は2月末までに提出され、その後、報告結果を本委員会で点検評価した。各学科、各委員会と調整した後、3月の教授会で報告した。
- (2) 教育向上委員会主催の「カリキュラムに関する教員研修」において、本学部教員が、現行のカリキュラムについて俯瞰し、課題を見出すこと、看護学科ではカリキュラムポリシーと科目群との関係をマッピングすることを目的とした研修が行われた。本委員会ではこれを第一歩と考え、時間をかけて検討していくこととした。
- (3) について
 - ① 教育・研究・管理運営に関する目標・成果指標については、4月の教授会にて学部長より平成27年度までの目標と今年度の目標を提示した。

- ② 年度末に今年度の目標の達成度を評価し、来年度の目標について本委員会で検討した。
- (4) 大学基準協会の認証評価で指摘された事項に対する改善のための工程表を再度確認したところ、看護栄養学部として取り組むべき改善はすでに実施済みであることが確認された。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 計画通り実施され、各学科、各委員会の活動におけるPDCAサイクルを確立することができた。
- (2) 大学と学部の教育理念・目的、人材養成の目的、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーが整備されたのを受け、看護学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーの検討を開始する計画であったが、教員研修により現行のカリキュラム全体を全教員でまずは把握する段階にとどまった。
- (3) 計画通り実施し、学部の目指す方向性の共有を図ることができたと考える。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 次年度も各学科、各委員会の活動にPDCAを継続して実施するとともに、学部の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化を図ることに繋がっているか点検評価する。
- (2) 次年度は、看護学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーの内容の見直しと記述方針との整合性の点検を開始する。
- (3) 次年度の目標を新たに提示し、平成27年度の目標達成に向け、学部の目指す方向性の共有を図る。

以上